



多様な「見方」ができる「見方」を身につける



早速ですが、問題です。左の絵をご覧ください。

何に見えましたか？

大変有名な絵ですので、もしかしたら見たことがあるという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。この絵は、一見すると少女にも見える。しかし、よくよく見てみると、老婆にも見えてしまいます。いや、逆だろう。一見すると老婆だろう、という声も聞こえてきそう。そして、え～このどこが少女なの？という声も。

だまし絵ともいわれるこれらの絵画は、私の「見えている」ものが、あなたが「見えているもの」とは違う場合もあることを示しています。そして、一度畏にはまっちゃうとあなたが「見えている」ようには、決して私には「見えない」。

人間の目（脳）は非常に高性能にできており、目の前の情報を自分の今の問題意識や探究のために、何も知らせずきゅっと焦点化してくれているそうです。それも無意識的に。つまり、今見えているものが、見ているものすべてではない。



その上、厄介なのが、相手が見えているように見ようと試みても、そう簡単にはいかないということです。もう一度、上の絵を見て、老婆に見える場合と少女に見える場合を区別してください。加えて、ちょっとイジワルをしてみましょうね。真ん中には少々垂れた目がくっきりと見えており、その左下には大きな驚鼻がありますよね。そして、長～いあごがふさふさしたコートからちらりと見えています。その上、こんなラフ図を見せられたらどうでしょう。

老婆にしか見えない…

榎木っ子には、多様な「見方」ができる人になってほしい（もちろん、私もなりたい！）。そのためには、2つのことが大切だと常々思います。

1つ目が、人間の目は高性能なんだけど、それゆえ自分が「見たいもの」しか見えない、ということを知ること。このような偏見や思い込みを総称して「バイアス」というそうです。ただ、「バイアス」は決して悪者ではなく、日常をスムーズに送るためには欠かせない見方でもあります。左右どちらの足から踏み出すかを、毎回考えてはられませんよね。

2つ目が、バイアスがかかった見方を変える自分なりの方法をもつこと。私は、自分が苦手な人や自分とは違う行動様式をもつ人と積極的にかかわることで、新しい自分にはない「見方」を教えてもらうことにしています。これ、簡単そうで実は難しい～。

2学期は、ぜひ多様な「見方」ができる「見方」を身につけてほしいな。そんな思いを込めて、始業式には子どもたちへ上記のような話をしました。

※少女に見えないという方へ、なんかごめんなさい。こんなラブ図も一応紹介しておきます。



どうですか？右後ろを向き、首にはネックレス（チョーカー）をしたおすまし少女が見えてきたでしょうか。

参考文献：スティーブン・R・コヴァー「7つの習慣」キングベアー出版2013